

1 令和2年度を取組目標と方策

<p>(1) 学校経営</p> <p>各種会議を充実して情報共有を進め、有効な改善策立案と実施を行う。</p> <p>①常に企画調整会議での学校経営計画の理解浸透を図りながら各分掌・学年の意見聴取の双方向性を高め、学校運営の進捗を適正に管理し、適宜必要な方策を検討し実施する。</p> <p>②主幹会議を機能させ、教育課題に迅速に対応する。</p> <p>③「Tokyo P-TECH」によるIT人材育成のためのプログラムの具体的なプランの作成を行うため、プロジェクトチームを編成し、計画的・継続的な検討を進める。</p> <p>④経営企画室は、経営的視点に立った経営計画を策定し執行する。</p> <p>⑤働き方改革プランに基づき、ライフ・ワーク・バランスの改善に取り組む。</p>
<p>(2) 学習指導</p> <p>学力向上推進委員会を中心として、全教科で「充実したわかる授業」を展開し、生徒のやる気を引き出す。</p> <p>①学力スタンダード、技能スタンダードの実施を踏まえて、求める学力や技術・技能の到達目標を明確にし、ALを積極的に取り入れ、生徒の学力の確実な向上を図る。その際、STEAM教育や職業スキル育成(7項目、ワークスペース・ラーニング、WPL)を意図的に授業に取り入れ、実施する。</p> <p>②授業評価・到達度評価など適切な評価を計画的に行い、生徒のつまづきを明らかにして、充実したわかる授業を展開する。</p> <p>③課題(宿題や予復習を含む)や小テストの実施等の工夫により、授業時間外の学習を促す。</p> <p>④スタディサプリや教科・系列が連携した指導体制に取り組むことで学力向上を図り、生徒の意欲を高める。</p> <p>⑤教科「人間と社会」を生活指導とも関連付けながら計画的に実施する。</p>
<p>(3) 進路指導</p> <p>「生徒の希望進路の実現」を果たす。</p> <p>①学年集会、面談週間、個人面談などを活用し、最後まであきらめない進路指導を継続する。</p> <p>②教員による企業訪問等によりニーズを把握し、進路講話、進路ガイダンスなどを充実させ、入学時から3年間の見通しをもった指導により、社会人として望ましい勤労観・職業観を育む。</p> <p>③企業講話、ものづくり講話などでの外部人材の活用やインターンシップの実施を発展・拡充し、生徒の職業に対する理解を深める機会をより充実して社会的・職業的自立意識を醸成し、将来の職業選択の一助とする。</p> <p>④対話力、協調性、分析的思考、セルフ・マネジメント、好奇心、動機づけ、リーダー性・責任感について、教科横断的にWPLを実施する。</p>

⑤町工グローバル IT エンジニア育成プログラムを着実に実行し、参加生徒のグローバル感覚の育成を図るとともに、その効果を全生徒が共有できるようにする。

(4) 学校生活と健康づくり

すべての教育活動で生活指導の有効性を共有し、生徒に「身に付けさせる規律・規範」を明示して、「いつでも」「どこでも」「誰でも」の指導を徹底する。

- ①身だしなみや言葉遣いに関する指導や挨拶ができる指導を継続して実施する。
- ②すべての学校生活の場面で、学校として一致した「ぶれない生活指導」を行う。
- ③特別支援教育の視点をふまえて、個々の生徒に有効な指導方法で対応する。
- ④全教職員が一致していじめを許さない姿勢を見せ、いじめ撲滅を果たす。
- ⑤宿泊防災体験活動等の防災教育を充実させて、自助・共助の意識を育てる。
- ⑥市選挙管理委員会等と連携した体験活動により主権者教育を計画的に進める。
- ⑦生徒指導部・学校いじめ対策委員会・特別支援教育委員会を中心として、全教職員と保護者が連携し、生徒個々のわずかな変化にも早期に対応し、生徒に自らの人生を充実させる指導を推進する。

(5) 特別活動

生徒が諸活動に主体的・積極的に取り組む中で、帰属意識や他を思いやる心を育て、体力・気力を養い、困難な状況にあっても「くじけぬ心」を育てる。

- ①新入生に部活動参加を奨励し、2年生以降の部活動継続と加入を促し、加入率を向上させる。
- ②自主的・自律的な学校づくりに向けて、生徒会の自立的活動を推進し活性化を図る。
- ③部活動等の特別活動に限らず、体罰及び不適切な指導が行われることのないように、全教職員への周知及び全生徒への指導を徹底し、発生初期での対応が可能な体制づくりの強化を図る。
- ④文化祭や体育祭などの全校で取り組む学校行事について、生徒会及び各行事の実行委員会等と担当教員とのコミュニケーションを活性化し、意見を集約・精選して学校全体の取り組みとしての一層の充実を図る。
- ⑤読書活動を推進する読書会などの取組を計画・実施する。
- ⑥オリンピック・パラリンピック教育を推進する。

(6) 広報活動と地域連携

ホームページや SNS を活用し、中学生やその保護者に本校の魅力を発信し募集対策を強化する。また、地域行事等への参加を推進する。

- ①情報の即時発信のためにホームページを適時の更新・充実を行う。
- ②中学校への出前授業、本校での体験学習を実施し、本校の特色ある教育内容を紹介する。
- ③授業公開、学校見学会、学校説明会、個別相談会を適切な時期で実施する。
- ④全教職員による学校説明会などを運営し、募集活動を充実する。
- ⑤地域産業を中心とする企業との連携を推進する。
- ⑥学校開放事業を推進するため近隣中学校や地域との連携により開かれた学校づくりの実施する。

2 成果と課題

① 本校を理解した生徒の獲得

総合情報科の特色を生かした4系列のものづくり教室や1日体験入学を充実させるとともに、広報を徹底して多くの中学生に参加してもらい、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。

【数値目標】入学者選抜応募倍率の推薦に基づく選抜2.0倍、学力検査に基づく選抜1.2倍の達成

【成果】

- ・推薦に基づく選抜1.36倍、学力検査に基づく選抜0.63倍となった。東京都の中学3年生の生徒数は、最近10年間で最も少ない約74,000名程度であることも影響している。
- ・コロナ禍で、来校や出向いてのものづくり体験講座等は実施できなかった。
- ・一般社団法人ものづくり文化振興協議会と、「地域ものづくり教育・文化振興に係る連携協定」を締結した。今後は、地域でのものづくりイベントに参加し、本校の特色をPRする機会を設ける。
- ・町田市内のすべての中学校に訪問し、教育活動の説明を行った。

【課題】

- ・長期休業期間等を活用して、来校によるものづくり体験講座や中学校に出向いてのものづくり授業を実施する。
- ・地域からの要望を踏まえたものづくり体験教室等を実施する。
- ・地域のイベントやコミュニティでの部活動の成果を発表する機会をもつ。
- ・文化スポーツ推薦で、「プログラミング」枠の募集を検討する。

② PDCA マネジメントサイクルの実動化とライフ・ワーク・バランスの改善

教育系職員と行政系職員の関係を強化し、効率的で有効な学校運営を推進する。学習指導・部活動指導等の質の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進め、ライフ・ワーク・バランスを改善する。

【数値目標】教育系・行政系合わせて、電子決定方式の80%以上達成
全員による夏休の100%取得及び5日間の閉庁日の完全実施

【成果】

- ・コロナ禍の中、自宅勤務や時差勤務を積極的に働きかけた。
- ・全員による夏休の100%取得及び5日間の閉庁日の完全実施ができた。
- ・教職員全体では、勤務時間外の職場滞在時間は概ね減少した。
- ・教育系・行政系合わせて、電子決定方式の80%は概ね達成できた。

【課題】

- ・業務効率化を推進するため、ICTの活用をさらに推進する。
- ・土日の学校行事に対する週休日の変更は、年間行事に振替協業日を設定し、ライフ・ワーク・バランスを推進する。

③ 「いつでも、どこでも、誰でも」指導ができる体制とぶれない指導

「始業チャイムとともに授業開始」、「身に付けさせる規律・規範」等、教職員の一致した厳しくも温かい指導を実践する。

【数値目標】対在籍者比で退学者2%以下、転学者と退学者の合計で4%以下

【成果】

- ・対在籍者比で退学者 0.6%だった。
- ・転学者と退学者の合計で 2.5%だった。
- ・特別支援教育委員会を 12 回開催し、生徒情報を共有した。

【課題】

- ・ぶれない生活指導を実現するために、年度当初に学校生活の規律を生徒と教職員に確実に周知する。
- ・特別支援教育委員会を活用した、きめ細かい指導を実施するとともに、校内研修会の充実を図る。
- ・アンガーマネジメントの考え方を生徒や保護者に定着させるため、講演会を実施する。

④ 充実したわかる授業づくり

学力スタンダード、技能スタンダード等、各科・系列の学習到達目標達成のため、教科会・系列会議・総合情報科会を計画的に実施して教科マネジメントを機能させる。

【数値目標】 授業に関する科・系列研修会を年 2 回以上実施

【成果】

- ・大学共通テストの分析を各教科会で行い、本校生徒の学力向上の手だてを検討した。
- ・成績会議では、各教科の評価の観点を共有することができた。
- ・授業に関する教科会での研修は、教科により取組の差はあるが、概ね 2 回以上実施した。

【課題】

- ・Teams を活用した即時授業アンケート集計機能を活用した授業改善を実施する。
- ・技能スタンダードの内容については、外部有識者等の助言から改善する。
- ・オンライン授業、双方型授業の手法や工夫を校内研修課等で共有化を図る。

⑤ 生徒の希望進路の実現

最後まであきらめさせない励ましの指導を全校的に継続し、教員による企業訪問やインターンシップの充実を図る。

【数値目標】 学校斡旋による進路決定率 100%

【成果】

- ・コロナ禍のため、教員による企業訪問やインターンシップは実施できなかった。
- ・2 月に 2 学年進路ガイダンスをオンラインにて実施した。
- ・進路状況 就職 55 名、公務員 2 名、進学 58 名、その他 10 名
- ・進路決定率 98%
- ・3 学年の進路面接指導は、全教職員で実施した、

【課題】

- ・外部教育力を活用したオンライン進路指導を充実を図る。
- ・学年と進路指導部が更なる連携を強化し、きめ細かい進路指導を推進する。